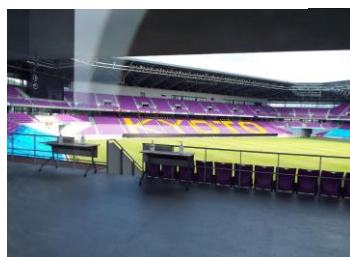




「光秀ゆかり・亀山城址の城下町＆ トロッコで保津峡見物」

活動報告 担当4班

- 【実施日・集合場所】 令和2年8月28日(金) JR亀岡駅改札口
 【集合時間】 Aグループ(4班・5班・6班) 午前9時50分
 Bグループ(1班・2班・3班) 午前10時20分
 【参加人数】 78名 【天 候】 曇り・時々小雨
 【行 程】 JR亀岡駅(各班ボランティアガイド顔合わせ)→亀山城址城下町(ガイド案内)→丹山酒造(試飲)→
 サンガスタジアム特設会場(フードコート:昼食弁当、麒麟がくる京都亀岡大河ドラマ館見学)→
 JR亀岡駅→JR馬堀駅→トロッコ亀岡駅(解散)→嵯峨野トロッコ列車(嵐山・嵯峨野駅自由下車)



サンガスタジアム



京都亀岡大河ドラマ館



嵯峨野トロッコ列車



車内風景

【所 感】

- ・「光秀公のまち亀岡」として有名な亀岡市は光秀が丹波亀山城を築城して本能寺の変に出陣するまでの約5年間にまちづくりの基礎を築いた。城郭や城下町の整備はその後徳川時代に大規模に行われ、特に岡部長政が藩主になった慶長14年(1609)には五層の天守閣と城下町の城郭が完成した。現在の古い街並みは江戸時代のもので、光秀の遺構はほとんど残っていなかった。
- ・「亀山城址は7月21日より当面の間、見学休止で入場出来なかった」城址所有者は宗教法人大本教である。ガイドの説明によると見学休止理由は韓国の宗教団体のコロナ集団感染(クラスター)にあるらしいとのこと。「亀山城址の所有者が宗教法人大本教に至った経緯」:城は各大名の持ち物でしたが「廃藩置県」で国のものとなったが明治新政府にとって約300もの城は必要なかった。明治7年「廃城令」通達により2つに区分して処分した。



(1) 陸軍が軍用地として使用する城(150)

(2) 大蔵省へ引き渡して売却用財産とする城(150)

丹波亀山城は明治10年京都商人が払い下げを受けその後、数人の手に渡り城址は切り売りされ荒れ果て、見かねた亀岡出身の宗教法人大本の教祖・出口王仁三郎が大正8年買い取り城址をよみがえらせた。

- ・「サンガスタジアム by KYOCERA」は令和2年1月に竣工したばかりのサッカー、ラグビーなどの専用球技場。収容人員 約21,600人 フィールド 126m(南北)×84m(東西) 天然芝 サッカー・ラグビー国際試合開催可。最上段からガラス越しにカラフルな内部を覗き見ることが出来ました。
- ・「サンガスタジアム・フードコート」で昼食弁当(亀岡牛しぐれ煮ちらし寿し)を食べました。600円自己負担。約2時間の城下町散策後の熱中症対策としてに冷房の効いた室内で昼食弁当を取る企画を立てました。
- ・「麒麟がくる京都亀岡大河ドラマ館」はサンガスタジアム特設会場で1月11日～1年間、開催しています。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の衣装や小道具の展示、ストーリーやキャストの紹介、パネル展示などがあり、大河ドラマの全体像がよく分かるように展示されていた。団体入館料480円はそら組負担。
- ・「嵯峨野トロッコ列車」は丹波亀山城址の見学休止の代替として追加企画しました。嵐山渡月橋がかかる大堰川(おおいがわ)の上流、保津川に沿ってトロッコ亀岡駅からトロッコ嵯峨野駅まで片道7.3kmを時速約25km、およそ25分かけてレトロで可愛い列車で保津峡を駆け抜けます。保津川沿いの自然や溪谷美、四季それぞれの違った風景を楽しめました。団体運賃560円はそら組負担。